基礎研レポート

資産形成、やってはいけないこと

ーFX 取引、暗号資産、NFT に手を出してはいけない

金融研究部 研究員　熊 紫云
(03)3512-1856　ziyunxiong @nli-research.co.jp

1――ギャンブルと投機は資産形成に向いていない

世の中には、株式、債券、不動産、ＦＸ取引、暗号資産、ＮＦＴなど多種多様な商品が溢れている。安心して資産形成をするためには、ギャンブルや投機ではなく、適切な投資商品を選択して活用するのが必要で望ましいと前回のレポート[1]で述べた。

投資は、長期的に参加者全員の持ち分合計が増えていき、参加者全員の利益合計がプラスになるプラスサムゲームのことである。参加者それぞれが期待できる利益もプラスであるため、資産形成に向いている。

代表的な投資商品として、債券には利息、株式には配当、不動産には賃料収入という定期的にインカムを受け取る仕組みがある。さらに、株式には将来的な会社価値が増加していくと期待できる仕組みがある。

一方、「ギャンブル（賭け事）」や「宝くじ」、「投機」は、投資とは異なり資産形成の手段としては使うべきではない。

ギャンブルや宝くじは、参加者全員の持ち分合計が減っていき、参加者全員の利益合計が確実にマイナスになるマイナスサムゲームのことである。参加者それぞれが期待できる利益もマイナスになるので、資産形成には向いていない。このことは既に多くの人が理解していると思う。

投機は、参加者全員の持ち分合計が一定で、利益合計がゼロというゼロサムゲームの取引もしくは将来的な価値が良く分からず、参加者全員の将来の持ち分合計と利益合計が不明である商品である。

[1] 2023 年２月 21 日 基礎研レポート「資産形成に向いている投資商品とは何かー何に投資をしたら良いか迷うのであれば、iDeCo やつみたて NISA などを活用すべき」https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=73985?site=nli

 | Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

つまり、参加者全員の利益の平均もゼロか不明になるので、参加者それぞれが期待できる利益もゼロか不明なので、普通の人は資産形成をする手段として、投機に手を出してはいけない。

しかし、専門知識や資金がある投資のプロや資産運用機関が短期的に多額の利益を追求する目的で、投機を実際に活用する場合があるので、普通の人でも投機をすれば将来的に多額の利益が獲得できるかもしれないと思える点が魅力的なのかもしれない。また、投資との区別がつきにくいことも、普通の人が投機に手を出してしまう一因なのかもしれない。

このレポートでは、投機を中心に、世間一般によく知られている商品と取引について説明してみたい。そして、よほどの投資のプロや目利きでない限り、投機に該当する取引や商品などが資産形成に向いていないこととその理由について説明していきたい。

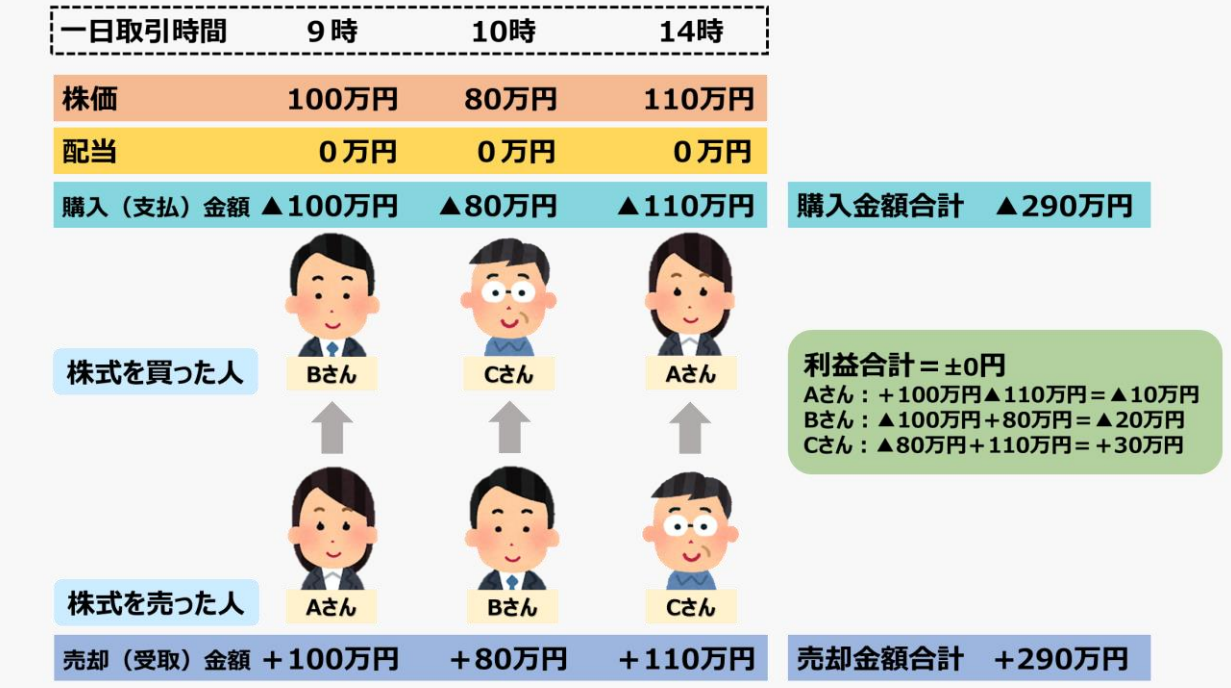
2――投機の具体例

本章では、投機に該当する取引や商品の具体例を詳しく見ることで、投機が資産形成に向いていない理由を説明したいと思う。

1｜株式のデイトレード

株式、債券などの証券商品は投資手法によって、長期投資と短期売買に分けることができる。株式の短期売買の代表的な方法としては、一日という短期間の値動きから利益を得ようとするデイトレードがある。デイトレードは市場が開いている間、株式を購入したり、株式を売却するなど、一日のうちに利益確定をするという特徴がある。図表1で株式のデイトレードについて考えてみよう。

【図表1】株式のデイトレード



Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

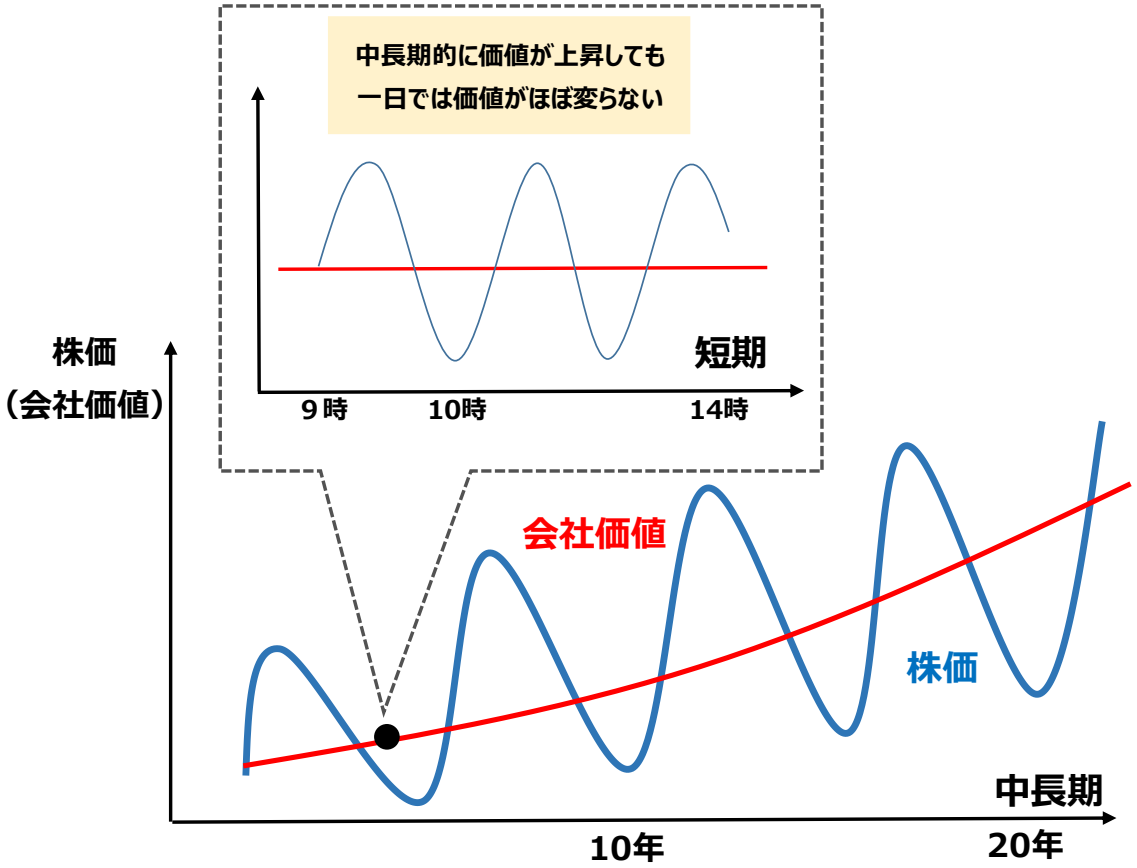
以下の3つの取引がそれぞれデイトレーダーの間に発生したとする。この日の9時、Aさんは100万円で空売りし、Bさんが買った。10 時、Bさんは株価80万円で損切して売り、C さんが買った。14 時、C さんは株価110万円で売り、Aさんは110万円で買い戻した。

この一日、Aさんが 100 万円で売り、110 万円で買い戻して▲10 万円の実現損、Bさんが 100 万円で買い、80 万円で売って▲20 万円の実現損、C さんが 80 万円で買い、110 万円で売って＋30 万円の実現益があった。一日を終えて、デイトレーダー全員の購入金額と売却金額は同額であり、損益を通算するとデイトレーダー全員の利益合計は基本的にゼロである。

株式のデイトレードでは、一般的に市場が開いている間に売買が終了するので会社の配当を受け取ることができない。また、将来の業績が期待できる会社の株式は中長期的に会社価値が上昇し、それとともに株価も上がっていくと期待できる。しかし、図表2のように中長期的に会社価値（ファンダメンタルバリュー）が上昇しても、たった一日（図表2：黒い丸）では会社価値がほぼ変わらず、一日の株価は基本的に様々な情報による投資家間での需給関係だけによって上下すると考えて良い。

このように、株式は長期的に投資商品として値上がりが期待できても、短期取引をするとインカムも価値増加の仕組みもないため、投資家全員の持ち分合計は一定である。従って、一日中、どれだけ取引を行っても、その日にデイトレードを行った投資家全員の利益合計は基本的にゼロとなるので、麻雀と同じでゼロサムゲームである。手数料や税金等を考慮するとマイナスサムゲームとも言える。株式のデイトレードは投機であり、資産形成に向いていない。

【図表2】中長期・短期の株価変動と会社価値の増加



 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

2｜FX取引の短期売買

ＦＸ取引（外国為替証拠金取引）は２つの国の通貨を交換するレートの変動から売買を行う商品である[2]。為替レートは 24 時間変動しているので、ＦＸ取引はいつでも行える。

外国為替市場で日本の個人投資家が欧米の報道機関によって「ミセス・ワタナベ」と名付けられるほど、注目されている。これは、日本の会社員がＦＸ取引を行い、日本のお昼休み時間帯に特異な為替変動が起こるからと言われている。このようなインパクトまで生じるほど、日本においてＦＸ取引を行っている人が多いのであろう。

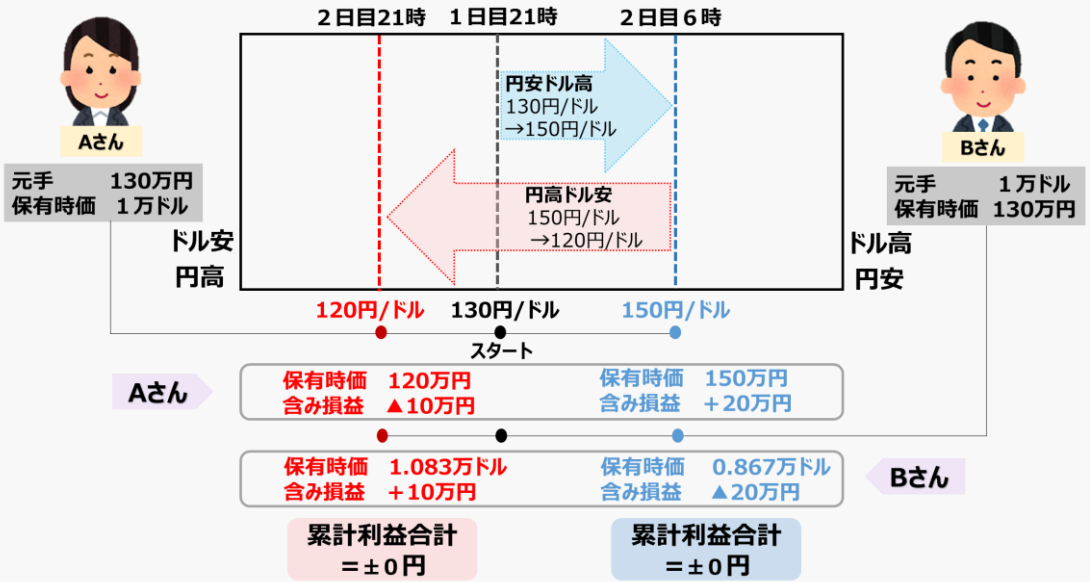
図表３でＦＸ取引の短期売買を分かりやすく説明するため、為替レートの変動を現実よりかなり大きくした例で説明する。ある日 21 時、ドル円為替レートが「1 ドル＝130 円」になった時にＡさんは 130 万円でドルを買い、Ｂさんが１万ドルで円を買ったとする。Ａさんは１万ドルを保有し、Ｂさんは 130 万円を保有することになった。

翌日６時に、ドル円為替レートが「１ドル＝150 円」に動いた。Ａさんは１万ドルを保有しており、円貨換算で 150 万円になり、元手の 130 万円に対して＋20 万円の含み益がある。一方、Ｂさんは 130 万円をドル換算すると、0.867 万ドルになり、元手の１万ドルに対して▲0.133 万ドル、つまり円換算すると、▲20 万円（▲0.133 万ドル×150 円/ドル）の含み損が発生している。ＡさんとＢさんの利益合計は±０円である。この時に実際に売買を行うと含み損益は実現損益になる。

２日目 21 時のドル円為替レートが「1 ドル＝120 円」に動いた場合を見てみよう。

Ａさんが保有する１万ドルを円換算すると 120 万円となり、元本 130 万円より含み損▲10 万円が出ている。一方、Ｂさんが保有する 130 万円のドル時価は 1.083 万ドルとなり、元本１万ドルより含み益＋0.833 万ドル、円換算で＋10 万円（＋0.083 万ドル×120 円/ドル）である。２日目 21 時でも、投資家全員の利益合計はゼロである。この時に実際に売買を行うと含み損益は実現損益になる。

【図表3】ＦＸ取引の短期売買



[2] 金融庁 HP（https://www.fsa.go.jp/ordinary/iwagai/）を参考した。

Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

このように、ＦＸ取引でも、外貨預金の金利と似たようなスワップポイントをもらう目的とした長期取引であれば投資であるかもしれないが、為替変動から利益を獲得しようとするＦＸ取引の短期売買ではインカムも受け取れず、価値増加の仕組みもないため、麻雀と同じで、どの時点で取引を行っても投資家全員の持ち分合計は常に一定であり、投資家全員の利益合計はゼロであることが分かる。

さらに、日本においてはＦＸ取引でレバレッジをかけて少額から高額な取引をすることができる[3]。図表３のＡさんは、単純計算で 3,250 万円（元本 130 万円×レバレッジ最大 25 倍）の取引ができる。しかし、ドル円為替レートが「1 ドル＝120 円」に動いた時点で売却したら、▲10 万円の 25 倍である▲250 万円もの損失が出る可能性がある。レバレッジをかけると、儲ける時は利益が大きくなる一方、損をする時は大きな損失が発生する可能性があり、リスクが高すぎる。

ＦＸ取引の短期売買は基本的にゼロサムゲームで、手数料や税金等を考えるとマイナスサムゲームであるとも言える。ＦＸ取引の短期売買は投機であり、資産形成に向いていない。特にレバレッジをかける場合は極めてリスクが高い投機であり、けっして素人が手を出してはいけないと思う。

3｜暗号資産（仮想通貨）

最近話題となっているビットコイン、イーサリアムなど暗号資産（仮想通貨）の取引についても少し考えてみよう。

ブロックチェーンという技術によって記録・管理されている[4]暗号資産は、銀行等の第三者を介することなく、インターネット上でやりとりできる財産的価値である[5]。将来的に暗号資産の信用力が高まって、幅広く使われるようになれば長期的に価値が上がる可能性もあるかもしれないが、現時点においては情報開示が不十分で、信用力も低く、経済的価値の算出が困難で、本質的な価値がわからないため、将来の価値がどうなるかも良く分からない。

暗号資産の取引はインカムも価値増加の仕組みもなく、基本的に長期でも短期でも需給関係だけで価格が決まるゼロサムゲームである。さらに、暗号資産の取引実行等をサポート（マイニング等）する作業者に報酬が支払われる仕組みがある。このような価値の流出や税金等を考えると、マイナスサムゲームであるとも言える。ビットコインやイーサリアムなどの暗号資産は初心者でも大丈夫とインターネット上で幅広く宣伝されているが、筆者は普通の人が手を出してはいけないリスクが大きい投機商品であると考えている。

---

[3] 知るぽると HP（https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/yogo/k/gaikoku_kawase_shokokin_torihiki.html）を参考した。
[4] 一般社団法人全国銀行協会 HP（https://www.zenginkyo.or.jp/article/tag-g/9799/）を参考した。
[5] 日本銀行 HP（https://www.boj.or.jp/about/education/oshiete/money/c27.htm）を参考した。

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

4｜美術品

美術品を所有することによってインカムは発生しないが、鑑賞する価値や所有する喜びがある。こうした魅力に加えて、美術品は将来的に値上がりするかもしれないが、株式投資と違って、将来の価値上昇を合理的に期待できるわけではない。美術専門家や専門業者であれば美術品に関する十分な情報や価値を見極める専門知識もあるだろうが、普通の一般人にとっては、本質的な価値を見極めることは難しいし、将来の価値上昇を合理的に予測することは更に難しい。また、株式など証券商品に比べて換金性もかなり劣る。

歴史的に知名度や人気が高いルノワールやゴッホ、ピカソなどのアーティストによる美術品であれば、既に安定的な経済的価値を持ち、信頼性のある実物資産と言えるかもしれないが、このような美術品は購入価格が極めて高く、一般の人はなかなか手を出せるものではない。また、美術商等の美術品専門業者でないと偽物を購入するリスクもあり、盗難、火災等による消失リスクもある。

目利きでない一般の人にとって、美術品とか、それと似たような宝飾品、腕時計等といった個別性の強い芸術系やコレクション系の資産の取引は、インカムがなく、将来に向かって価値が上昇するかどうかもわからないため、基本的に購入者と売却者の需給関係だけで価格が決まるゼロサムゲームであり、資産形成に向いていないと言える。

5｜NFT（Non-Fungible Token、非代替性トークン）

暗号資産と同じくブロックチェーンによって記録・管理されているＮＦＴは、画像、音声、映像などデジタルデータに紐づけられ、「唯一無二の資産」として取引されている。特に注目を集めているＮＦＴデジタルアートは個別性が強く、物理空間における美術品等と同じ特性を持つと考えられる。ＮＦＴは、インカムがなく、普通の一般人にとって本質的な価値を見極めることが難しく、将来の価値がどうなるかわからない投機商品であり、資産形成に向いていない。

以上、説明してきたよう、ゼロサムゲームである投機取引をすると、参加者全員の持ち分合計が一定であるため、ある参加者の利益が、必ずその他の参加者の損になる。よほど自信がない限り勝ち続けることは難しく、長期的な資産の増加は期待できない。多くの参加者にとっては運しだいという側面が強く、長期的な資産形成としてはリスクが高すぎる。

尚、株式等の証券と異なって、暗号資産、美術品、ＮＦＴといった本質的な価値が良く分からず、将来の価値がどうなるか不明である投機商品を購入すると、大きな利益を獲得できるかもしれないが、良く分からないまま過大なリスクを背負ってしまう危険もある。インカムを定期的に受け取ることがなく、将来の価値が良く分からない、このような投機商品に資金を投入するのはどう見てもリスクが高すぎる。普通の人にとっての資産形成の手段としては、けっしてお勧めできない。

Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

3――投資のプロやベテランでない限り、個別銘柄投資は資産形成に向いていない

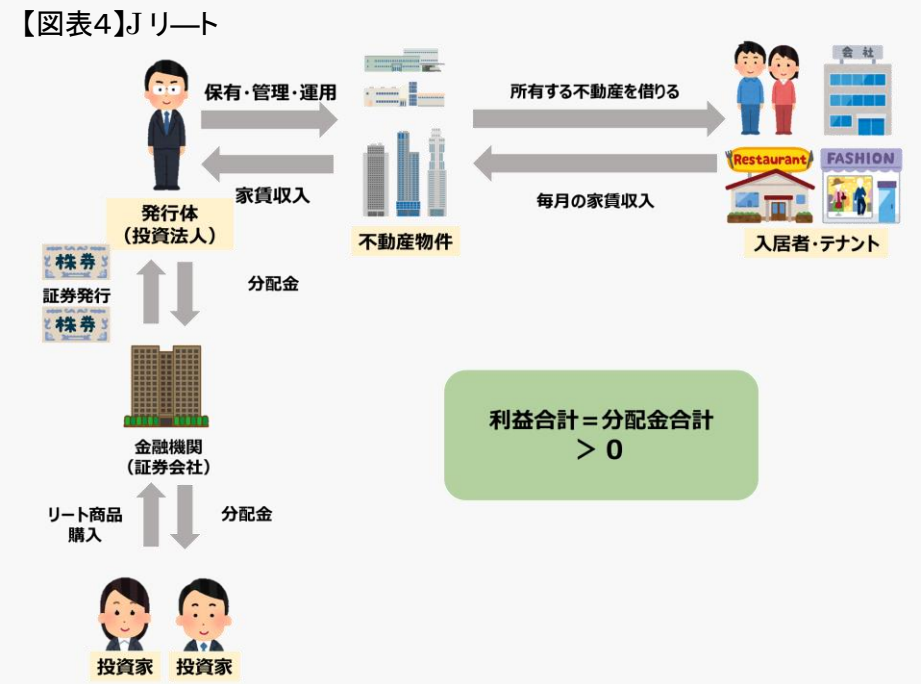
これまで、資産形成に向いていない投機に該当する取引や商品の具体例について見てきた。本章では、資産形成をする際に、プロでない限り、個別銘柄投資は資産形成に向いていないことを紹介したい。

例えば、株式の場合、個別株1銘柄に集中投資したら、会社業績が好調であれば大きな利益を得ることもできるが、会社業績が不調とかで倒産とかすると、株式価値がゼロになり、投資金額すべてを失うことになりかねない。よほどの株式投資のプロやベテランでない限り、個別銘柄投資のリスクは高く、資産形成に向いていない。

より効率的に資産形成をするために、複数の銘柄、投資先の国や地域を分散する方法である資産分散がとても大切である。一般の個人投資家であれば、プロにお金の運用を託して株式などに少額から手軽に分散投資できる投資信託という手段を活用すべきであろう。現行つみたてNISA、新NISA（つみたて投資枠）、確定拠出年金制度（企業型DC及び個人型のiDeCo）等の税制優遇諸制度に採用されているような投資信託であれば銘柄分散は十分できているので、こういう集中投資リスクは基本的にない。

不動産の場合においても分散投資は重要である。もし、ワンルームマンション1戸のみに投資すると、投資したマンションで入居者がいなくなり、家賃をもらえなくなり、管理費等のコストだけが発生する可能性がある。また、ワンルームマンション等の現物不動産は換金性も低いので、急ぎで多額の現金が必要な時に困るし、急いで売るために値段が下がったり、市況が悪い場合は売れなかったりする。さらに、不動産に関する金融知識や一定以上の大きな投資資金が求められるため、一般の個人投資家にはハードルが高く、効率的でない。やはり、不動産のプロでない一般投資家にとって少数のワンルームマンション投資はリスクが高すぎて資産形成には向いていない。

【図表4】Jリート



一般の個人投資家には、複数の物件に効率良く分散投資をする方法として、REIT（Real Estate Investment Trust 不動産投資信託、以下、リート）投資がある。

図表4は日本におけるJリート投資を簡単に図示したものである。投資法人は優良な複数の不動産物件（オフィスビル、賃貸住宅、商業施設、物流施設、ホテル等）を証券化したものをJリ

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

ートとして発行する。投資家は株式に相当するリートに投資することで、実質的に数多くの物件の入居者から費用等を引いた利益の大半を分配金として定期的に受け取ることができる。また、Ｊリートは投資法人が不動産の管理・運用を不動産のプロに委託している。物件の入れ替えを適宜に行ったり、管理の効率化を図ったりするなど、物件全体の価値が増加していく仕組みがある。

銘柄選択と分散投資に気を付けながら、投資商品を長期的に持ち続ければ、投資からのインカムや価値上昇で、将来の参加者全員の利益合計がプラスと十分期待できる。資産分散の他に、分散投資には時間分散があるが、このレポートでは詳述しないので、以下のレポートを参照してほしい。

2022 年 7 月 19 日「老後のための資産形成－確定拠出年金等で老後のために何に投資したら良いのか？－外国株式型、国内株式型、バランス型、外国債券型と国内債券型でのパフォーマンス比較」
https://www.nli-reseArch.co.jp/report/detAil/id=71804?site=nli

4――まとめ

本レポートで、ギャンブル（賭け事）と投機は資産形成に向いていないこととその理由を説明してみた。

ギャンブルや宝くじは、参加者全員の持ち分合計が減っていき、利益合計が確実にマイナスなので、資産形成には全く向いていない。ギャンブル等はやはり娯楽として楽しむものなのだと思う。

株式のデイトレード、ＦＸ取引の短期売買等短期取引は参加者全員の持ち分合計が一定で、利益合計がゼロというゼロサムゲームで投機取引であり、資産形成には向いていない。

暗号資産（仮想通貨）、美術品、ＮＦＴなどはインカムを受け取ることもなく、一般人には本質的な価値が良く分からず、将来的な価値上昇を合理的に期待できる仕組みもなく、需給関係だけで価格が決まる投機商品に該当し、これも資産形成には向いていない。

投資は参加者全員の持ち分合計が増えていき、将来の利益合計がプラスになると合理的に期待できるものなので、長期の資産形成に向いている。債券、株式、不動産など投資商品にはインカムもしくは将来的な価値の増加を期待できる仕組みがある。

但し、投資のプロでない限り、個別銘柄投資は資産形成に向いていない。投資商品であっても、銘柄選択や分散投資に気を付けながら長期保有することがとても大切である。

以上をまとめてみると、資産形成に向いているのは、債券、株式、リート等の投資であり、分散投資や換金性を考えると投資信託を利用した証券投資が良いと思われる。株式のデイトレードやＦＸ取引の短期売買、個別性が強い美術品や新しく市場に出てきた暗号資産（仮想通貨）、ＮＦＴなどは、資産形成に向いていない。普通の一般人は、こうした投機には手を出すべきではないと考える。

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

長期的な資産形成のためには、安心して投資できる商品が数多くある、現行つみたてNISA、新NISA（つみたて投資枠）、確定拠出年金制度（企業型DC及び個人型のiDeCo）等の税制優遇諸制度を積極的に活用すべきであろう。資産形成に向けて、少額でも良いので積立投資を始めるなど、なるべく早く準備を始めることが何より重要であると考えている。まずは実際に投資を始めてみてはどうだろうか。

【附表】まとめ

	資産形成に向いていない	
	ゼロサムゲーム （プラスかマイナスかゼロか分からないゲームを含む）	マイナスサムゲーム
参加者全員持ち分合計	一定/不明	減る
参加者全員利益合計	ゼロ/不明	マイナス
	投機	ギャンブル(賭け事)等
商品（取引）	株式のデイトレード　FX取引の短期売買 暗号資産（仮想通貨）の取引 美術品　腕時計　宝飾品　NFT	競馬　競艇 パチンコ　宝くじ

	資産形成に向いている	
	プラスサムゲーム	
参加者全員持ち分合計	増える	
参加者全員利益合計	プラス	
	投資	貯蓄
商品	債券 株式 不動産	預貯金 元本保証型保険

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。